

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1256号	氏名	山田 兼史
論文審査担当者		主査教授	永山 雄二
		副査教授	朝長 万左男
		副査教授	伊藤 敬
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、ATL における NF-κB の恒常的活性化の分子機構を解明するため、ATL 腫瘍由来 cDNA ライブラリーからその活性化分子を分離同定しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>NF-κB の活性化を指標とした発現クローニングの手法は妥当であり、また分離同定した遺伝子の機能解析を種々の分子生物学的手法を駆使して解析した研究手法も高く評価される。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で、以前同研究室で ATL における癌遺伝子として同定された Tgat 遺伝子を分離同定し、さらに活性化責任部位、細胞シグナル伝達系、細胞内での他分子との会合状態を、特に Tax との相違を明らかにしながら、解析した研究内容は高く評価される。また、これら内容は今後の ATL 病態研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は ATL 発症に関与する分子機構の解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			